【一薬の魅力①西日本唯一の漢方薬学科〈1〉「生薬の『修治』」とは】

2025/2/7公開

第一薬科大学は西日本で唯一、漢方についても学ぶことができる漢方薬学科がある大学です。２月７日には「生薬の修治（しゅうち）」という実習が行われ、学生らはケツメイシなど３種類の生薬を使って古典医学書にも載っているという伝統技術「修治」について学びました。

「修治」とは、生薬を炒ったり煮たりなどをする加工処理のこと。修治することによって、効果を高めたり、副作用を弱めたりするなどの狙いがあるそうです。生薬が持っている「力」を変えられるのですね。

薬学部５年が選択できる「伝統医療薬学実習」の一環として行われたこの日の実習では、指導にあたる城戸克己准教授が、ケツメイシなど３種類の生薬を用意。学生らはグループ別に大きな中華鍋の中へ適量のケツメイシを入れて焦がさないようにしばらく炒ったうえで冷ましました。その後、容器に入れて、お湯を注ぎます。

修治したケツメイシと、修治していないケツメイシのお茶を飲み比べました。修治したケツメイシのお茶の方が香りや味もインパクトがあったようで、香りをかいだ途端〝変顔〟になってしまった学生がいた一方、飲んでみると「コーヒーみたいっ！」と驚いて気に入った表情を浮かべた学生もいました。

カンゾウもケツメイシと同様に炒ります。別の鍋で煮詰めたハチミツをたらして、さらに炒りました。生薬のままのカンゾウは抗炎症作用がありますが、煮詰めたハチミツを混ぜて炒ったカンゾウは胃腸を元気にする作用があるそうです。

城戸准教授は「修治は古典医学書にも記されているほどですが、今では既製の生薬が流通していますので現場で修治する薬剤師はほとんどいないと思います。実習でその技術について知ってもらえたのでは」と話していました。

◇

随時、講義や実習をはじめ、さまざまなカテゴリーから【一薬の魅力】をご紹介していく予定です。